

このレターは、当協会にご縁を頂いている経営者の皆様にお届けしています。

答えのない21世紀で奮闘されている経営者の皆様へ

Vol. 82

2024.01.01

U 協 近 畿 通 心 ～ U 協 を 使 い 倒 し ま し ょ う ～

公益財団法人 日本電信電話ユーザ協会
近畿事業推進部

【撮影】ご来光！薩摩富士 開聞岳

岳と高山植物を撮る、山岳カメラマン！絶景ハンター 外西 敬二さん

【年頭のごあいさつ】

新年、あけましておめでとうございます。

近畿事業推進部の川畑です。

皆さま、よいお年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年の漢字は「税」でした。「税」が選ばれたのは、消費税が引き上げられた2014年以来2回目です。昨年は岸田首相からも税還付、増税等に対する発言がたくさんありました。

2024年度の国家予算（一般会計）は、112兆700億円と閣議決定されました。税込等で70.1兆円、新規国債34.9兆円の都合105兆円の歳入です。2023年9月末で家計金融資産約2,100兆円、民間非金融法人企業資産1,400兆円。そのうち家計現預金1,100兆円です。

乱暴な意見ですが、全ての税金を廃止し、この家計現預金に10%課税するだけで110兆円の税込です。更に企業の金融資産にも10%課税すると、140兆円で都合250兆円の税込（国家予算の約2倍-借金も返していけます）は作れます。税をシンプルにする事で、税に関わる機関では廃止される場所も出てくることでしょう。また、国家予算も効果的・効率的に使われるようになると思います。何より将来世代に借金を回さなくてもいいです。そうすると市場にお金が込みだし、経済は好転します。これくらいの議論を今年こそは国会で喧々諤々やって欲しいものだと思います。

今年は辰年！干支は「甲辰(きのえ・たつ)」です。「変革（転機）」や「激動」が示すように時代が動く年とありますので、どういう年になるか楽しみです。

さて私達は、「**会員様にとって魅力ある協会活動**」、「**会員拡大**」といった二つのレンズに照らして業務を進めています。今年もここはぶれずに業務に邁進して参ります。

昨年もしろんなことにチャレンジしました。うまくいったこと、まだまだ工夫が必要なことなど多々ありますが、今年も諦めず着実に前進していきます。

今年やってみたいことは、6ページに書きましたのでご覧ください。

【新年、地元鹿児島伊佐の菅原神社でこんなことを祈願しています。】

○ウクライナ進攻、ガザ紛争が少しでも早く終息して平和が訪れますように！

○景気がよくなって、人々の心が豊かになりますように！

○今年も会員様や世の中のお役に立つ協会になれますように！

今年も「U協近畿通心」を愉しんで頂けると嬉しいです。



西宮廣田神社の今年の絵馬です。
毎年立派な絵馬が奉納されています。
今年も素晴らしいです。

前は、第111回「良き問いは、答えに優る」（2023.7.14）をご紹介しました。
今回は、第112回「**オノマトペの力**」（2023.8.15）をご紹介します。

「**オノマトペ**」という言葉は、耳慣れた言葉ではないですが、ご存じだと思います。

新しいカタカナ語が氾濫する今の日本社会ですが、擬音語、擬態語、を表すのにオノマトペというフランス語が使われ出したのは、もう大分以前からのことです。そのオノマトペを今回テーマに取り上げたのは、外国語やIT語がごく日常的になった昨今、日本語の特質を知るのに、オノマトペという特異な存在を知ることが大事だと考えるからです。

オノマトペとは何か

オノマトペは、大別すると二つに分けられます。

一つは「ワーワー」「キャンキャン」「ゴーゴー」「ケタケタ」「ニャーニャー」などの、自然界が出す音や、生き物が発する音声を模した**擬音語**です。二つは、「にっこり」「ゆらゆら」「てくてく」「パクパク」「ピンピン」など、身振り手振りや動作といった抽象的な様態を間接的に描写した**擬態語**です。

このオノマトペは、日常会話はもちろん、小説やドラマ、昔話、さまざまなネーミングや童謡、唱歌、流行り歌、時には難しい論文にまで、広く使われています。日常的に耳にしたり目にしたりしたものを、そのまま言葉にでき、文字にもできること。その日本語仮名文字の簡便さ、気安さ、分かりやすさが、大量のオノマトペを生み出したのでしょう。

仮名文字があってオノマトペはある

日本は世界有数のオノマトペ大国なのです。前述したように、幅広い分野でオノマトペを生み出し得たのは、仮名文字によって、話しことばと書きことばが完全に対応し合えたためです。

8世紀に中国から漢字が入ってきた時に、音声言語をそのまま表記できる仮名文字を作ったことで、虫や鳥、獣の鳴き声を豊かな感性で聴き分け、オノマトペという表現で分類できたこと、病気やケガの症状を伝えるのも、また食の味を表現するのも、多様なオノマトペを作り得たことによる勝利です。

日本の科学技術の進歩にも、同様のメリットが数多くあったのだと思います。

オノマトペを上手に使う

話し上手の人には、豊富な知識、経験を前提として、三つの共通項があると、オノマトペ研究家の得猪 外明（とくい そとあき）さんが言っています。共通項の1は、**必要以上に喋らないこと**。2は、**間の取り方がうまいこと**。3は、**オノマトペを有効に使うこと**だそうです。得猪さんは、日本でオノマトペが異常に発達した理由として、日本語は、母音がア、イ、ウ、エ、オの五つしかないこと、また音節が112と少ないこと（金田一 春彦説）、この言葉の貧弱さを補うために、日本人は「イライラ」とか「ムカムカ」など二音節反復型のオノマトペを大量に作り出したというのです。尻取りという遊びが生まれたのも、そのおかげでしょう。

健康状態を伝える オノマトペ

オノマトペが日本人の暮らしに最も役立っているのは、健康状態を伝えるオノマトペだと思います。

胃がムカムカする。キリキリ痛む。お腹がシクシクする。頭がガンガンする。

心臓がドキドキする。顔がヒリヒリする。傷口がずきずき痛む。ぞくぞく寒気がする。

これらの症状は、ほとんどの日本人が身につけている二音節反復のオノマトペで表現されています。

しかし、今後ともに増えることが予想される外国人に伝わるでしょうか。本人はもちろんですが、対応する医師、看護師、薬剤師の皆さんには、このオノマトペ力が語学力以上に必要になりそうです。

オノマトペを大切に

AIが電話対応をし、接客をし、ニュースまで読む時代です。とは言っても、AIがオノマトペを理解し、話すとは考え難いのです。**日本人だからできるオノマトペを活かした会話、自然や人とのつながりを生き生きと深めてくれるオノマトペの世界は大切にしたい**のです。

IT社会の言葉は、日々進化はしています。その反面、無味乾燥になりつつあるのも事実です。

今回、オノマトペをテーマとしたことで、数冊の本を読みました。そしてそこから広がる日本語の世界が、如何に広く深く、面白いものであるかを改めて知りました。得猪 外明さんの著書の第1章には「究極の日本語、オノマトペ」と書かれています。**皆さんもぜひ「オノマトペ」に関心を持ってください**。

【ユーザ協会の得意技！ こういう蓄積・ノウハウがあります。】CTコラム 消費者向けのメタバース活用法（1/2）

テクノロジーの進化により、メタバースの活用方法も多岐にわたり、さまざまな事例が見られるようになってきました。この活用方法について、前号で企業内に閉じた利用について紹介しましたので、連載最終回の今回は、消費者向けのメタバースの活用例を解説します。



消費者向けメタバース活用における三つの方法

メタバースには「人工的な三次元空間内で、複数のユーザーとコミュニケーションが取れる」、「臨場感の高い体験が可能」といった特徴があり、これらの特徴を活かし、さまざまな業界において活用が始まっています。その中でも消費者を対象にしたメタバース活用については、各業界の特性や課題に基づき、多種多様な活用方法が検討され始めています。これらは、主に「イベント開催」、「仮想店舗」、「観光地・街並み再現」の三つにカテゴライズできますので、それぞれの活用方法について以下に解説していきます。

イベント開催への活用

昨今、新型コロナウイルスによる影響でリアルイベントが減少していますが、メタバースを活用することで遠隔地から人工的な三次元空間に入り、リアルイベントに近い形でイベントに参加することが可能になっています。

メタバースを活用したプロモーションイベントでは、新商品や新サービスを再現した3Dモデルをメタバース空間に配置し、消費者が空間内を移動しながら見られるようにすることができます。

そのため、ウェブ会議ベースのイベントと比較し、消費者はより臨場感のある体験が可能です。さらには、「新商品の細部まで近づいて見る」や「新サービスが実際に使われる姿を目の前で見る」といった、人工的な空間ならではのコンテンツとして体験することができるなど、従来よりもインパクトのあるイベントを体験できます。

例えば、オンライン会議では一方的な説明になりがちな教育イベントを、インタラクティブな体験型イベント（写真①参照）として開催することで、消費者は現地に行かずに施設見学を体験することが可能です。施設見学に任意の3Dオブジェクトや360度画像を配置することで、現実では展示することが難しい貴重なコレクションや実際には立ち入り禁止の区域などを再現して間近で見せることができます。教育イベントでは、文化祭やオープンキャンパスなどの学校行事をメタバース空間上で行うことで、時間や場所にとらわれず、さまざまな人が学校の雰囲気を味わいつつ交流することができます。

このほか、メタバース空間上でコンサートや卒業式などのライブイベントを開催すると、会場の人数制限や立地にとらわれず、多くの人々が手軽にイベントに参加することができます。

また、映像通信によるライブイベントと比較し、アバター※1を活用したインタラクティブな体験も楽しむことができます。さらには、天候を変えるなどの現実では不可能な演出も、メタバースライブでは可能になります。



写真①

子ども向け金融教育イベントをメタバース空間で開催したもの。金融という難しいテーマだが、ゲーム感覚で楽しめるようにすることで、話を聞いてもらえるように工夫している

仮想店舗への活用

百貨店、銀行などを人工的な三次元空間に作成し、**仮想店舗として現実の店舗のように商品販売や接客を行う**ことも、メタバースの有効な活用方法の一つです。

仮想店舗では、消費者は店内を自由に移動し、複数人で話しながら商品ディスプレイの中から商品を選択し、購入することができます。ECサイトでは数字と画像でしか判断できない商品のサイズ感や特徴も、**仮想店舗であれば3Dオブジェクトにより直感的に判断できる**ようになり、もし仮想店舗内にスタッフがいれば直接相談することも可能です。さらに販売者は、**内装や光の演出によってお店の雰囲気や世界観を空間上で表現し、商品とともに訴求することもできます**。

また、仮想店舗内では、現実の銀行や保険窓口と同じように顧客と商談ができ、**新しい顧客タッチポイントとして注目**されています。ウェブ会議ベースの商談と比較し、アバターを介することで**精神的なストレスを受けにくくなり、本音を引き出しやすくなるのもメタバースのメリットの一つ**です。このほか、チャットやオンライン会議での商談と比較し、商材の3Dモデルやエフェクト※2を活用することで、より**訴求力の高い提案を行うことができる**のも魅力です。

観光地・街並み再現への活用



写真②

NTTデータとバチカン図書館が協力し、バチカン市国にある歴史的建造物グレゴリアンタワーの3Dモデル化に成功

観光地・街並み再現は、すでに広くメタバース活用が進められている領域です。

近年、写真から3Dモデルを作るフォトグラメトリ技術※3や、レーザー光を用いて物体の形状を把握するレーザースキャン技術の進化・活用により、**町や観光地、歴史的建造物の3Dモデル化盛んに行われています**（写真②参照）。

それらを人工的な三次元空間内へ配置し、**中を消費者に移動してもらうことで、町や観光地の魅力を直感的に発信することが可能**です。

さらに、空間内に町の名産品を買うことができる**仮想店舗を配置することで、地方創生にも貢献**できます。

また、歴史的遺産・文化財の保全としても3Dモデル化による再現は有効であり、国や自治体からも注目を集めています。

このように、メタバースの特徴を活かした活用方法は豊富にありますが、まだ発展途上であり、さまざまな業界・企業が日々模索を続けており、目的に合わせた新しいメタバース活用方法を検討しています。既存の活用方法にとらわれず、現状ではどのような課題があり、**どこにメタバースが活用できそうか、上流工程からしっかり考えることがメタバース活用の近道となるでしょう**。

※1アバター 英語でavatar、日本語で化身、権化を意味し、ユーザーの分身のように表示させるキャラクターのこと。

※2エフェクト 映像などに加工処理を行い、さまざまな効果を加えること。

※3フォトグラメトリ技術

対象をさまざまなアングルから撮影し、その写真を解析してリアルな3DCGを生成する技術。

※4PoC Proof of Conceptの略で、日本語で「概念実証」と訳される。新しい手法などの実現可能性を見出すために、試作開発に入る前の検証を指す。

【お役立ち情報：茨城商工会議所で講演しました。】

12月21日（木）、茨木商工会議所の依頼で、「**ChatGPTは仕事に使えるか?**」というテーマの講演をしてきました。講演依頼のきっかけは、5月の大阪北地区協会理事会での私の講演を、茨木商工会議所の笹井専務理事が聴かれていたことに始まります。

ChatGPTは、昨年11月にアメリカで発表され、わずか2カ月で1億ダウンロードという記録的な普及で、その後もいろんなビジネスで活用されるようになっていきます。

今回は、**①ChatGPTとは何なのか？ ②ChatGPTはどんな仕事に使えるのか ③具体的な使用例**について講演しました。

当日は30名募集に対して54名の参加で、テーマの関心の高さが伺えました。

講演は、最初にICT活用で大事な経営者の心得

①まず自ら触れてみる(=担当任せにしない)

②何ができるのか経営者視線で概略を掴み、自社のどこに使えるのかをイメージする

③自社でトライするしかけを考える(大枠) ⇒ やって合わないなら次の手を考える

という話から始めました。そしてDXや生産性向上の現状を理解していただきました。

そのあと、ChatGPTの仕組み、プロンプトに必要なとされるもの、いくつか実際のプロンプトと回答をお話しました。プロンプトに少しずつ指示を加えて回答が変わっていくところ、特に「関西弁で親しみ易く」と追加して、関西弁でChatGPTが応えてくれたのには会場が沸いていました。

その他にもChatGPTが描いた絵にも驚きの声があがっていました。ChatGPTの3.5と4.0の違いを表にしてお話しました。

ChatGPT3.5とChatGPT4.0の違い

	ChatGPT3.5	ChatGPT4.0
情報の鮮度	2021年9月までの情報を保有	同左
マルチモーダル	テキストや数値のみ	テキストや画像、数値、音声など複数のデータを組み合わせて処理することが可能
知識量や思考力	統一司法試験の模擬バージョンは下位10%の成績	統一司法試験の模擬バージョンに合格し、さらに上位10%のスコアを獲得
創造性	十分に創造性が高く、対話型AIとして非常に優秀	3.5を凌駕する創造性を保有
安全性	回答の安全対策を後から付け加えた形で運用 有害のある回答を生成する確率は6.48%	強化学習アルゴリズムを改良したRLHFを採用 新しくルールベースの判別器が備わったため、安全な回答を生成しやすい大規模言語モデル 有害のある回答を生成する確率は0.73%
正確性		Hallucination (AIの幻覚) を回避する確率は従来の3.5に比べて高くなっている
処理能力	約5,000文字の処理性能を保有	約25,000文字までテキスト処理が可能
料金	無料	有料 月額≒20\$ (≒3000円)

次にどんなところで使えるのか、どんな官公庁や企業で使っているのかをお話し、最後にその具体例をChatGPT4.0を使ってお話しました。

この1年でChatGPTは急速に利用が進んでいます。2035年には労働組合は最低賃金を1,600円/時間と言っている中で、デジタルでもアナログでも生産性を向上させる必要に迫られています。ChatGPTを使うか、否かはあなたの判断です。最初ICT活用での経営者の心得で話したとおり、**まずは自ら触れてみるのがとても大切**です。ChatGPTは会社全体で使う方法と個人使用（福利厚生費）とするケースが考えられます。

貴社にあったやり方でまずは使ってみてください。そして、**自分(社)のChatGPTで自分(社)専用チャットを育てて、自分の優秀な秘書を作ってください。**

それがご自身の知的生産をあげることに繋がると私は考えています。

【お役立ち情報：2024年にやってみたいこと】

昨年は、大阪の1支部・4地区理事会での講演、鹿児島県庁の講演、茨木商工会議所の講演、「**大前さんに学ぼう**」に**都合2回2,800名を超えるお申込み**を頂き、お役に立てたのではないかと感じています。また、いろんな活動をする中で会員様にも十分に情報が届いていないことや、ブラッシュアップがまだまだなと感じた1年でもありました。協会内では昨年業務運営改革検討WGを立ち上げ、8つのSWGで検討を進め、やれるところから2024年度の事業計画に反映していくことになりました。私はICT等検討SWGのリーダーを務めました。ICTもまだまだやれることが沢山あります。今年はこのことに**トライ**していきたいと、新年にあたって考えています。黄色網掛けは特に力を入れていきます。

1、電話対応による企業様のCS向上支援

→ **もっともっと多くの企業様に知って欲しい、活かして欲しい**

- ① **自社の電話対応力を確認して頂きたい** → CS向上初めの一歩
 - CS向上サイクルの充実、認知向上、利用促進
- ② **ユーザ協会を使って電話対応で培ったスキルをさらにブラッシュアップして頂きたい**
 - 全国型オンライン講座の開発・開催・利用促進
 - 電話対応コンクールの認知向上、利用促進
 - 企業電話対応コンテストの認知向上、利用促進

2、企業様でのICT利用促進支援

→ **ICTをどのように活かしたらいいのかわからない経営者の方のお役に立ちたい**

- ① **経営者の視点からみたICT等の知識をインプットして、貴社内にアウトプットして頂きたい**
 - 大前さんに学ぼう（7月、1月）（**会員無料**）
- ② **ICT活用事例、ICTツールを知って頂き、貴社で活用して頂きたい**
 - 他団体にはない魅力的な全国型オンライン講座の開発、開催（**会員無料or一部有料**）
 - ・経営者のための○○講座　・指導者のための○○講座　・新社会人のための○○講座
 - ICT活用ページのブラッシュアップ
 - DX活用ページのブラッシュアップ
- ③ **全国型ICTセミナーをオンラインでたくさんの方に利用して頂きたい**
 - 全国組織という当協会ならではのセミナーの充実、ブラッシュアップ（**会員無料or一部有料**）
- ④ **ICT相談窓口の開設（まずはWebで）**
 - ベンダー、キャリアとの人脈をもつ当協会ならではの橋渡し（**会員限定**）
- ⑤ **商工会議所と連携した講演を通じて世の中の役にもっと立ちたい**

3、世の中に協会の存在・魅力を知ってもらい、絆を深めファンを増やす

→ **どんな役にたてるのか、協会に入っていると何が貴社の役に立つのか、わかりやすくタイムリーに発信することをブラッシュアップ**

【ICT用語豆知識 「IoTデバイス」ってご存じでしょうか】

IoTデバイスとは、機器同士やローカルのネットワーク、またはインターネットで接続し、情報や制御のやりとりをする、**IoT（モノのインターネット）**における「モノ」にあたります。「モノ」には、スマートフォンやパソコン、タブレットのように**直接クラウドに接続する情報端末**などがあります。また、それら情報端末に対して無線接続するスピーカーや照明、空調機器のような家電製品、スマートウォッチのような**ウェアラブル機器**なども含まれます。

製造業などの産業においては、工場のFA機器に設置されたセンサや高精度カメラ、変位計など、やりとりするデータの容量や多彩さから、**データを処理する中継機器（IoTゲートウェイ/エッジコンピューティング/フォグコンピューティング機器）**を介してインターネット接続することが主流となります。細分化・低コスト化するIoTデバイスですが、安価なデバイスの脆弱性を狙ったサイバー攻撃はシステムダウンを招く危険性があるといわれており、**セキュリティ強化も課題**となっています。

【お役立ち情報：新年最初はこの本をご紹介します。】

昨年年初には、「世界の潮流2022-23スペシャル」をご紹介しました。何か皆さんのビジネスのヒントに役に立っていましたら嬉しいです。今年もお役にたちそうな本を適宜ご紹介していきます。今年最初は、大前研一さんの「日本の論点2024-25」をご紹介します。毎週日曜日20:00～22:00大前研一LIVEにて大前さんが、私たちのビジネスに直結するニュースを解説されます。私も毎週欠かさず視聴しています。この本は、そんな大前さんの話や記事をまとめた本で年の総括にはとてもいい内容です。今年の論点は、25記載されています。お正月休みに頭を整理する本としてお勧めです。時代が動く甲辰には読んでおきたい本です。目次は以下のとおりです。



Partt1 〈日本編〉

巻頭言 2024年、日本が目指すべきは真の「観光立国」だ

- 論点01 岸田首相をはじめ日本の政治家が誰も理解していない、日本凋落の根本原因
- 論点02 岸田政権が続く限り、日本人の給料は確実に下がり続ける3つの根本原因
- 論点03 植田日銀総裁が、黒田「異次元緩和」路線と決別するために行うべき新たな金融政策
- 論点04 岸田政権が「異次元の少子化対策」の前に取り組むべき、「ごく普通の少子化対策」
- 論点05 産業振興目的の「大学10兆円ファンド」が、税金の壮大な無駄遣いになる理由
- 論点06 いまや国民病である花粉症患者が増え続ける根本原因とその裏に潜むさまざまな利権
- 論点07 「ソロ社会」「ソロ活市場」の出現に伴い日本企業が直面するビジネス環境の大変化
- 論点08 「日本を変えたい」という政治的野心に燃えた稲盛和夫氏の知られざる生涯
- 論点09 ネット配信時代のNHKは、受信料からチャンネルごとの課金制に移行すべし
- 論点10 インボイス制度導入よりも、サラリーマンに不公平な税制度の改革が急務だ
- 論点11 日本のシニアが楽しい定年後を送るための秘訣と、そこに眠るビジネスチャンス
- 論点12 介護崩壊を放置する日本の末路と、残された2つの選択肢
- 論点13 10年前に予見できた、モバイル事業以外に楽天グループが抱える衰退理由
- 論点14 移動モビリティの規制緩和とルールづくりにおいて日本が欧州から学ぶべき理由

Partt2 〈海外編〉

巻頭言 混迷極める世界情勢。「異形の大国」ロシアとのつきあい方を改めて考える

- 論点01 最新AI「ChatGPT」を開発した天才経営者が目指すのは「悪の帝国」か
- 論点02 新・世界の富豪ベルナール・アノーとイーロン・マスクの違い
- 論点03 ミサイル防衛よりも防空壕のほうが安全!? 日本の頼りない安全保障の実態
- 論点04 「日米同盟」と「中国包囲網」は、勉強不足で時代遅れな外交戦略
- 論点05 米欧銀行連続破綻は、世界金融危機のトリガーとなるのか
- 論点06 インフレに苦しむイギリスのスナク政権に残された「EU再加盟」という選択肢
- 論点07 ウクライナ侵攻が長期化しても、プーチンの支持率が高い歴史的理
- 論点08 「プーチン政権崩壊後」を見据えて始まっているロシア国内外の動き
- 論点09 不動産不況に苦しむ習近平政権はなぜ“日本いじめ”を始めたのか
- 論点10 外資系企業誘致よりも、日本人技術者を海外へ派遣せよ
- 論点11 グローバル化の時代にもかかわらず、日本人の英語力が一向に伸びない理由

<今年も原稿大募集します！>

あなたの知識や経験等が他の会員さんのお役に立てば、嬉しいです。いつでも待ってま～す。写真等も大歓迎です。

送り先：f.kawabata@jtua.or.jp（川畑）までファイル（A4）を送ってください。

2024年新春特別企画

大前 研一氏



「撮影 / 国府田 利光氏」

あの大前さんに「2023年経済から見た今後の経済見通し」を学ぼう！

日経平均は、年初25,716円だったのが11月にはついに33,853円と約33年ぶりに超えた高値再更新しました。

またドル/円は、年初132.23円が11月に最安値151.95円まで円安が進み、12月には147円前後で推移して

います。そんな中、家計金融資産が初めて2,165兆円と

過去最高を大幅更新。法人の金融資産は1,416兆円と増えています。日銀の金融政策が経済にあたる影響がどうなっていくのか気になりますね。

あの大前さんは2023年経済をどう総括されて、今後の経済はどうなると考えているのでしょうか。

今後の経済見通し、気になりますね。新年をスタートするにあたりゆっくり考えるいい機会です。

今後の事業経営のヒントは、このセミナーにあります。お見逃しなく。

【募集人数】 ~~1,000~~名(先着順) 追加募集中!

【Web申込先】 <https://coubic.com/jtua-kinki/1275087>

【開催日時】 2024年1月10日(水)

14:00~16:20 (13:40接続可能)

【参加方法】 申込時にアクセスURLをメールにてお送りいたします。

※商工会議所等からのご紹介の方は、該当欄に商工会議所等名を必ずご記入ください。

【主催】 (公財)日本電信電話ユーザ協会

本部、東京、東海、近畿事業推進部(合同開催)

【共催】 西日本、東日本電信電話株式会社

【開催内容】 あのマッキンゼーの世界的名コンサルタント大前さんに
2023年経済から見た今後の経済見通しを学ぼう!

【講師】 大前 研一氏(ビデオ)、丹羽 亮介氏(マインドシーズSG代表)

※お知り合いの経営者の方にもぜひご紹介ください。

【問い合わせ先】 近畿事業推進部 電話 06-6534-8615

